

「大震災時の保健師活動について」

宮城県宮城郡七ヶ浜町役場

鈴木 恵子

1. 七ヶ浜の概要

七ヶ浜町は、宮城県沿岸部のほぼ中央に位置し、町の面積が13.27km²と東北に市町村では一番小さな町です。

人口は20,261人（平成24年1月1日現在）人口密度は1,527人/km²となっています。人口は平成17年をピークに、年間100人程の減少傾向でしたが、東日本大震災以後は636人減少しています。

町の三方を海に囲まれ、北は松島湾東と南は太平洋に面した半島状の丘陵地です。

また、町の西側は塩竈市、多賀城市、仙台市に隣接しています。

仙台市をはじめ近隣市町へ第3次従事者が多く、主なる産業は沿岸部は海苔養殖と近海漁業の農業です。

2. 被災状況

平成23年3月11日 午後2時46分に発生した東日本大地震により、本町は甚大な被害を受けました。

本町の震度は、5強であり、本地震による津波が最大12.1メートル以上という大津波により、本町の約30%が浸水し被災家屋が1,200戸を数えるなど、かつてない大災害となりました。そして、尊い人命を失いました。

- ・町内での被災者70名[死亡者及び身元不明者]
(町民59名・町民以外9名・身元不明者2名)
- ・町外での町民死亡者32名
- ・町民の行方不明者5名

H23.10.31 七ヶ浜町災害対策本部公表

3. 家屋の被害

1,212世帯の家屋が、震災により被災しました。

- ・全壊 659世帯 ・大規模半壊 215世帯
- ・半壊 246世帯 床上0世帯 床下92世帯

H23.7.31 税務課発行の罹災証明に基づく数値

4. 避難所の状況

3月11日 生涯学習センター・国際村・小中学校等の公共施設をはじめ、幼稚園や接骨院等も含め、35ヶ所が避難所となりました。

隣接する石油コンビナートの火災も発生し、半径2キロメートル以内の地域は、避難指

示が出され、避難所も移動しました。そのことにより、避難所への避難者は、3月14日ピークの6,143名となりました。

その後避難所は、順次減少し、6月20日をもって、閉鎖しました。

避難所の運営は、住民の地区組織と役場の担当課（地区以内の避難所の状況把握も担当）が連携しながら、情報の収集、対策を講じ対応してきました。

毎日開かれる対策本部会議の内容は、紙ベースで要所要所に周知されました。

5. 仮設住宅

5月連休明けから入居開始

- ・ 応急仮設住宅 409 戸
- ・ 民間賃貸住宅 209 戸

H23.10.31 七ヶ浜町災害対策本部公表



6. 保健師の配置状況

保健師は、健康増進課の保健指導係 3名 高齢者福祉係 2名

町民課の 国保係 1名

地域福祉課 児童福祉係 1名と 計 7名

私は、地域福祉課児童福祉係に配属されています。

7. 震災直後・その後の保健師の活動

・健康増進課・町民課配属保健師は、5名（1名産前休暇中）は、救護対策部として集中され、11日～12日は避難所に届けるおにぎり作りをしていました。その後、地元開業医鹿島医師をはじめ、県内県外の他市町、保健所の応援をいただき避難所の巡回相談、訪問調査に従事しています。

3月13日 各避難所の巡回診療開始

16日 各避難所の巡回相談開始

17日 家庭訪問の開始

精神、身体、知的障害者

高齢者 乳幼児 介護予防うつ該当者等

4月 乳幼児健診開始

私は、12日～15日避難所となり15日以降4月2日までかしま田園クリニックの仮診療所となった子育て支援センターの施設運営に従事しました。

【地震発生時は、地域に出て救護活動に従事しました。】

七ヶ浜は、高台に小学校3校と中学校2校があります。地震発生前、私は、女性事務職員(K)と2人で町内の幼稚園を訪問していました。そして、帰庁するため公用車に乗り込んだところで、Kさんの携帯電話からけたたましい地震警報が流れ、すぐに地震が来ました。ラジオからの情報を得ながら、3館ある留守家庭児童保育館の状況確認に巡回しました。生徒達は、保護者が迎えに来るまで学校で保護されたので、児童館には生徒はいませんでした。建物も1か所を除き被害は少なく指導員も無事でした。巡回の道々、瓦屋根や塀の倒壊が多く見られました。そのことを役場に戻り上司に報告しました。

報告後、再び指導員を避難させるため児童館に向いました。最後の児童館に行く際、津波警報が発令されていたので、高台にある道を選びながら進みました。Kさんは、津波が来たら窓から逃げられるように、窓を開けて走ったといいます。まつかぜ留守家庭児童保育館に向かう途中、妙にガス臭く感じました。夜になって隣接する石油コンビナートが炎上したため、その近辺も避難区域になりました。

走行中に、Kさんの携帯に町内の幼稚園と住人が孤立している。救助を向けてと利府町役場に勤務する夫から情報が入り、メールで七ヶ浜町役場に連絡をとりました。その時は、かろうじてメールが通じていました。

最後の児童館（まつかぜ児童館）に到着したとき、大勢の町人が小学校に避難してくるので、初めて目の前が黒い海になっているのに呆然としました。音もなくあっという間に、今まで住宅の密集地であったところが黒い海に置き換わっているのです。

しばらくすると、海に浮かんでいる屋根によじ登ってきた女性を発見しました。手を挙

げて助けを呼ぶ女性に、避難してきていた男性 2 人が助けにかけ下りましたが、海水に阻まれ、別方向から回り込み屋根伝いに救出し小学校の校庭のテントに運び込みました。その女性（H70 歳代）は、全身ずぶぬれで、海水をかなり飲んだようで、激しい嘔吐と寒さで震えていました。彼女の足の創傷と激しい嘔吐対応を医療機関につなげるため公用車乗せました。

そうこうしているうちに、両脇を抱えられ全身ずぶぬれの男性（T70 歳代）が運ばれてきました。問いかけに返事はあるものの意識が朦朧としており、暖をとることと、近くの医療機関に搬送するため、公用車に乗せました。しかし、道路はどの方面も海水で寸断され、陸の孤島の状態であることができませんでした。とりあえず避難所となっている湊浜公民分館に行きましたが、分館は避難者で溢れ、数個の石油ストーブを囲んで高齢者を中心に膝を抱えて座っていました。その場の整理をしていたのは、区の世話役さん方や元健康推進員さんたちでした。とても頼もしく思いました。

HさんとTさんを湊浜公民分館に、とても下せる状態ではなかったので、玄関にいたO町会議員に相談したところ、O議員の自宅を提供してもらうことになりました。

近所の方々から着替えや毛布の提供ありました。Tさんは着替えの際、背部に広範囲の断裂創があり、肺までは達していなかったものの出血が多量にありました。その後、非番の救急隊員が駆けつけ、さらしで胸部帯を巻き応急処置をしました。退職した看護師のSさんも駆けつけケアしてくださいました。外は雪が舞い、本当に寒い日でした。

21時過ぎに塩釜方面への道路が開通し、消防車で病院へ搬送されました。2人を送り出してから、私たちも、コンビナートの爆発音を聞きながら、車がそこここに止まっている泥だらけの道を走行し役場に戻ることができました。役場に戻ったのは22:30を過ぎていました。

役場の中も、避難してきた人ひとりで溢れていました。2時間程度、椅子に腰かけて仮眠をとり、その後は避難所に届けるおにぎり作りをしたことぐらいしか記憶にないのです。

【12日から15日、避難所となった子育て支援センターの運営に従事しました。】

子育て支援センターには、車いすの方や高齢者、退院したばかりの乳児や1か月前に胃の摘出手術を受けた人等どんどん避難してきました。12日は89人、13日は91人になりました。防災対策本部から自家発電機1台調達してもらい、ヒーター3台を稼働させることかでき暖を確保しました。

私は、トイレの衛生管理・清掃・水・食事確保しました。そのような状況下でお母さん達は率先して、トイレの掃除・トイレの使い方のチラシを創って貼ったり、センター内の掃除にそっせんして協力をいただきました。障害者作業所の人たちから、少しでも暖かい食事をと、みそ汁の提供があったり、小学生や中学生は、小さい子と遊んでくれました。センターは職員1人配属だったのですが、皆で支えあいました。認知症の高齢者は、避難所では落ちつかず、包括支援センターの保健師の手配で、高齢者施設に移ってもらいま

した。

【15日～4月2日は、かしま田園クリニックの仮診療所となった、子育て支援センターの施設管理に従事しました。】

15日には、各避難所で風邪が流行し始めたので、避難者にはそれぞれに別の避難所に移動してもらうよう了解してもらい、町内の開業医の鹿島医師の協力で、急遽子育て支援センターを仮設診療所とすることとなりました。当時はガソリンもなく、医療機関への受診は困難で薬の処方もあり、町民はとても助かりました。

16日から徐々に、他県からの医療団・保健師の援助隊の支援が入り、センターに宿泊してもらい夜間の対応もしてもらいました。

このころから、今まで表面化していなかった個々の問題が、顕在化しその対応に奔走してきました。

震災前は家に閉じこもっていたAさん（40歳代男性）が役場の階段に22:00過ぎても階段にうずくまり動こうとしないと職員から対応の依頼がありました。Aさんは、言葉少なく、避難所へは入れず、震災後何も食べていない状況でした。医療団の看護師と保健師とで説得し子育て支援センターに泊まりました。その後彼は、流失した自宅跡地で暮らしていましたが、現在は仮設住宅で暮らしています。

避難所の生活になじめないMさん（80歳代男性）。同じ避難者を殴り、大声でわめきながらセンターに連れてこられた。半日センターでわめき、3日後、家族の説得も効果無く再度センターに怒鳴りこんできてその日は1泊しました。3回目には、1人で謝りにきて、数日後流失した自宅後の堀で凍死の状態で見つされた。

職員の管理職Sさん（この3月で定年を迎えるはずであった）が、役場で夕食時突然吐血した。すぐセンターにいた医師の救急車処置をうけて、救急搬送したが翌日死亡しました。

国際結婚して住んでいた妻と3人の子ども達が、夫からの暴力で逃げてきてとりあえず避難所で一時避難してさせましたが、夫に見つかり帰宅。しかし間もなく再び暴力を受け母子施設入所と他県への移送の手続きとなった。

【子どもの状況把握と環境の整備にあたりました。】

16日には、1か月前の2月に、児童館の指導員の研修を担当して下さった、NPO「ここねっと」の佐藤先生が、子どもがどんな状態か把握し、PTSD予防のために駆けつけてくれました。

避難所での子ども達は、大人達のピーンと張り詰めた緊張状態の中で、ジーンとしていました。この異常な状況の中で子ども達の状況を何とかしなければと思い、人もない・金もない。だが場所があるからと、先生に支援をたのみました。

町は、活動の場として、児童館2館を提供し、そのほか、避難所でもあった国際村も活

動の場となりました。子ども達のストレスマネジメントの活動は、週5日午後2時間7月中旬まで続けられ、子ども達にとってエネルギー回復の機会となりました。

佐藤先生の活動に参加する中、子育て支援としてやらなければならないことは何か考えさせられました。子どもたちにとってできるだけ早く普段の日常生活に戻るための対策だと思いました。

3月下旬から保育所開設と留守家庭児童保育館開設に向け、関係職員の打ち合わせを準備しました。2か所の公立保育所のうち、85名定員の保育所が地震により使用不可となり、45名定員の保育所で合同保育をすることになり、4月4日から開設しました。

留守家庭児童保育館は指導員も被災していることも踏まえ、4月4日からは一か所で保育し、新学期が始まる4月21日には全館で事業を開始できました。

母親たちから、子育て支援センターに、早く集まりたいと要望され、4月11日から子育て支援センター事業を再開しました。

震災直後から、NPOストックヤードが阪神淡路や新潟中越地震等の多くの支援活動の経験を踏まえ、七ヶ浜町に常駐して支援して頂きました。子育て支援においても、継続的した物心多方面の支援いただいております。

5月の連休明けから、子どもたちがさまざまなサインを出してきました。

夜泣き・ヒステリックに泣く・落ちつかない等、保護からの相談が続き、NPOここネット緊急サポートチームの支援をいただき、月2回の相談を開設しました。

仮設住宅で暮らしている子育て中のお母さん達から、集会場において集まる場・子育て相談の場を設けてほしいとの希望が出され、緊急雇用制度を活用して、退職した保健師を雇いあげました。各仮設住宅の情報収集と対策を立ててもらい、3集会場で子育て相談をそれぞれ週1回開設しました。その後お母さん達は自主運営しています。

留守家庭児童保育館の子どもたちは、感情のコントロールができず、喧嘩が絶えない日が続きました。指導員さん達が疲労困憊の状況が続き、対応策として各留守家庭児童保育館に指導員1名増員しました。

【8月から12月】

町は、平成23年度当初予算は緊急事態の対応の編成の組み換えをし、復旧に向け可能な限り補助制度獲得事業を組み立てることを優先させました。

8月から12月にかけては、津波で流された4か所の児童遊園の復旧工事。地震で大規模半壊となった遠山保育所の改築工事。さくら児童保育館の移設工事等、被災報告及び補助申請関連の報告書類作成に追われました。

震災から学んだこと

パート労働の多くの母親達は、3月から6月にかけてリストラで職を失いましたが、再就職が始まりました。近海漁業・海苔養殖従事者は、新たにグループで仕事を再開しました。

目の前の状況を「何とかしなければ」との思いで、突っ走ってきましたが、一人の力は、

弱いいけれど、同じ願いをもつ者同士が力を合わせると物事は動くこと。保健師の活動は、住民の SOS 発信に丁寧に向き合い、住民の力をつないでゆく日常の保健師活動がこそ大切であることを実感しました。七ヶ浜町の保健師は、介護保険制度が始まった時期から分散配置がすすみ特定健診、次世代育支援法の流れで4つの部署まで分散配置がすすみました。7人の保健師集団が分散することの弊害も論議され、今、保健師を一つ部署に配置する方向で進んでいます。そして業務担当優先ではなく地区担当制を基本とした活動の展開をしようとしています。

私自身、理屈抜きで、住民の健康を守る専門職として、一つになることの大切さを学びました。